

実施結果報告書

《技術の検証・情報提供及び普及》

事業名称：誰もが安心して過ごせる住まい事業

補助事業者：特定非営利活動法人おかやま入居支援センター

共同事業者：特定非営利活動法人CAPプロジェクトおかやま

R4事業年度・実施結果報告書（技術・情報）

0. 提案の概要

①提案事業の目的

空き家を活用して、DV相談の増加に対応するため、親子が安心して生活の立て直しをすることができる居場所等の提供を行う。

②提案事業の内容

●住宅等の整備

成年後見人が管理している空き家を賃借して、子育て支援施設として活用可能なように必要な改修（耐震補強を含む）を行う。

●技術の検証

本住宅の評価・利用者調査

●情報提供及び普及

募集チラシの作成・ホームページ掲載・メディア取材・報告書作成

1. 技術の検証 (1) タイトル

① 検証の目的・問題意識

利用者にアンケート・ヒアリングを行うことによって、利用者の満足度やニーズを調査して、専門家の意見を聞いて、今後の支援活動に活かす。物件改修の施工状況や改修後の状況について専門家のチェックを受け、空き家改修における課題を検討する。

事務所と居場所等が同一建物にあることの功罪を検討する。

② 仮説の設定

利用者からは、概ね高評価を受けられるのではないかと考えているが、改善点や課題が見出せるとよいと考えていた。

物件改修は、設計に従って予定通りに行われ、特に問題がないという意見が得られると考えていた。

事務所併設は、目が届くので安心感を与えるのではないかと考えていた。

1. 技術の検証 (1) タイトル

③ 検証方法

令和4年末、改修直後に専門家2名が来訪し、現地確認を行うとともに、設計者・施工者・運営者から意見を聞く（中間報告済み）

令和5年度、アンケート調査を行う。

令和5年度、約1年間の運営を踏まえて、同じ専門家が来訪し、運営者と利用者からヒアリングする。

1. 技術の検証 (1) アンケート結果

④ 検証の結果

① 子育て広場うめちゃんち
2022年度 毎月1回・第3金曜 10:00~12:00
2回開催 参加者数: おとな5人、子ども 5人
2023年度 毎月4回・毎週火曜 9:30~13:00
37回開催 参加者数: おとな 51人、子ども 59人
アンケートより(22人/51人)

◇ 誰と来ましたか…ひとり:3人、家族:16人、友人:3人
◇ 何でここを知りましたか?…SNS:7人、友人・家族の紹介:15人、その他:1人
◇ 評価…大変満足:16人、満足:6人

◇ その理由は?

- ・おもちゃ作りがよかった。
- ・子どもとのんびり、ゆっくり過ごせた。
- ・ゆったりと他のお友だちと遊べてよかった。
- ・子どもたちが楽しんでいました。
- ・性教育や発達のことを相談できた。・子どもと安心して過ごせる雰囲気が良い。
- ・情報交換ができた。今後の育児の心構えになった。
- ・質のいいおもちゃを自由に使わせていただいて嬉しかったです。
- ・広場も落ち着ける空間で、ゆっくり過ごすことができました。
- ・お話(睡眠・抱っこやおんぶ・靴選び等)を聞かせてもらって、ありがたかったです。
- ・いろいろ相談にのってもらえて、アドバイスをもらえたから。
- ◇ こんなことがあったら、うれしいなと思うことを教えてください。
- ・子どもと一緒に、お話を聞く時間が長いと過ごしにくさも…
- ・小学生も一緒に来れる日、ありがたかったです。
- ・ベビーマッサージ、発達等についての講座があればうれしいです。
- ・おしゃべり会。たくさん参加があつて、ママたちとお話できてよかった。
- ・ランチ会みたいなことができれば、うれしいです。
- ・今日のような講座があれば、また、参加させていただきたいです。

1. 技術の検証 (1) アンケート結果

④ 検証の結果

② うめちゃんちみんな食堂

2022年度 毎月1回 第3金曜日 18:00~、19:00~ (2部制)
2023年度 毎月1回 第3金曜日 18:00~、19:00~ (2部制)

8回開催 参加者数: おとな66人、子ども71人

アンケートより (22人/51人)

◇ 誰と来ましたか... 家族: 16人

◇ 何でここを知りましたか?... SNS: 5人、友人・家族の紹介: 11人、その他: 1人

◇ 評価... 大変満足: 11人、満足: 5人

◇ その理由は?

- ・おいしかったです。また来ます。
- ・0歳児用に食べやすいものを提供してもらえます。
- ・子どももよく食べていました! 家では食べないものも挑戦していました。
- ・息子とワンオペでの夕食はとても大変なので、毎回とても助かります。
- ・子どものアレルギーを配慮した献立で、安心しておいしくいただけます。
- ・毎月楽しみにしています。家族でゆっくり楽しくご飯をいただけて嬉しいです。
- ・たくさんのおかずでおいしかったです。・栄養まんてん! ありがとうございます。
- ・息子とのびのび美味しいご飯を楽しめました。
- ・とてもおいしくいただけ、お友だちとも遊ぶことができたため。

③ フード&ライフパントリー

2023年度 9/1、11/24、12/1の3回

各回10家族 合計124個のお弁当と1家庭に一袋生活物資や食料・米支援

アンケートより (32人)

◇ 誰と来ましたか... ひとり: 15人、家族: 15人、友人: 2人

◇ 何でここを知りましたか?... SNS: 5人、チラシ: 1人、友人・家族の紹介: 8人

その他 (岡山市おやこ応援メール): 18人

◇ 評価... 大変満足: 23人、満足: 5人

◇ その理由は?

- ・安く弁当をもらえてありがたい。・一食でも頂けると生活が助かります。
- ・のんびりできる環境で、子育ての相談をできるところが良いと思います。
- ・お弁当があるというだけで、心のゆとりがあります。ありがたいです。
- ・お弁当がとてもおいしそうで、物資の量もすごく多いので。
- ・生活用品、お菓子等とても助かります。たくさんありがとうございます。
- ・ありがたいお値段のお弁当だけでなく、たくさんの物資を頂けてとても助かります。

1. 技術の検証 (2) 専門家ヒアリング (子育てサロン)

④ 検証の結果 【運営状況】 週1回火曜日 (9:30~13:00) に開所

- ・ 利用料は500円/回・家族 (飲み物付き)
- ・ 広報は紙媒体・SNS。口コミによる利用者が増加している。
- ・ 利用対象者は、概ね就園前の子どもを対象としている。

【利用者の声】

- ・ 岡山市には子育て支援センターが数か所あるが、当該施設は民家 (空き家) 改修による普通の住宅であり、住宅のにおいが残る空間で安心できる。また他の施設と違ったおもちゃがあり、子供たちも喜んでいる。⇒スタッフの工夫がうかがわれた。
- ・ 当日の利用者3家族だった。うち、Aさんは当該施設から車で30~40分離れた総社市から参加していた。
- ・ 初めての子育てによる不安や悩みについて尋ねると、この場所に来ると、お母さん同士の会話やスタッフのアドバイスにより安心感が得られるとのこと。「悩みになる前に、みんなに相談できるので、子育ての悩みはない」とのコメントは印象的だった。

1. 技術の検証 (2) 専門家意見1

④ 検証の結果 【運営課題】 ・ 【検証者の視点】

- ・ 固定経費が家賃55,000円に加え、光熱水費+駐車場代がかかり、年間90万円程度かかっている。WAMや赤い羽根、橋本財団などの助成金が主な運営資金となっており、固定の収入がないのが気がかりである。現在は過去の預金を切り崩しながら運営している。
- ・ 次年度はクラウドファンディング（目標額：200万円）を始めるとのこと。一方で事業の趣旨を説明し、企業や団体からの寄付（協賛金）を集めるのも一つの手であるとアドバイスする。
- ・ 改修工事は、当初の計画や見積りでは見えない部分（特に木材の腐食や設備系の不具合など）があり、実際の改修工事に着手後、想定外の工事が発生するケースが多々ある。設計者が最初から最後まで関わることは、安易な追加工事を増やさないためにも必要な関わりだと思った。また、民間によるこうした施設があることで、制度に縛られず、支援を求めている人々たちへの柔軟なサービスが提供できることは、複雑多様化するこれからの社会において、新たな公共サービスとして行政理解が求められる。

1. 技術の検証 (2) 専門家ヒアリング (CAPPOハウス)

④ 検証の結果

- ・ 30代女性、小学生と幼児の3人家族。夫からの虐待により自宅からまず友人宅に避難、就職活動、家探しをおこなうが、1カ月を目途に出る必要があり困っていた。知人からおかやま入居支援センターの井上代表を紹介され、CAPPOハウスの存在を知った。
- ・ CAPPOハウスの利用は大変ありがたかった。
- ・ ほどよく自由にフォローもしてもらえた。スタッフが常にCAPPOハウスにいたことはありがたかった。特に夜にいてくれるのは安心だった。CAPPOハウスに戻る度に話をできる相手がいること、「よくがんばったね」「よかったね」といってもらえることは心強かった。
- ・ もともとの生活圏にCAPPOハウスがあることはありがたかった。子どもたちもそのまま小学校、保育園に通うことができた。
- ・ 子どもたちなりに過ごしていた。これは小3だからなんとかあったところがあるが、もう少し高学年だと厳しかったかもしれない。
- ・ 最も不安なことは今後の（生活上の）先の不安。でも孤独感はそんなになかった。たよっていけば助けしてくれる人がいると考えていたし、実際に助けももらった。地域にこだわったのはこの学区に仲間がいるから。
- ・ CAPPOハウスへの要望は特にはない。大通りに面していないので安心だし、洗濯物も室内に干す必要があったが、いざとなればコインランドリーがある。気になるとすれば車だろうか。車が利用できない人は不便ではないだろうか。
(自転車はもってきていた)

1. 技術の検証 (2) 専門家意見2

④ 検証の結果

空き家を活用した多目的利用の可能性

中野加奈子（2015）は、シェルターには7つの機能があると説明している（表1）。居住支援（一時的な居所提供とサポート）と交流機能の同時提供はAさん親子の日常性の回復に大きく貢献したといえるのではないか。

女性自立支援施設や母子生活支援施設は、所在地が限られていたりして、公的施設を回避するDV被害者も少なくない。

子どもへの暴力防止のための啓発活動からスタートし、子育て支援や子育て期の女性の相談支援等を総合的に行おうとするCAPプロジェクトおかやまによるうめちゃんハウスおよびCAPPOハウスは安心して暮らすことのできる地域のセーフティネットづくりに大きく貢献しているといえる。

課題としては、やはり多様な機能を支えるスタッフの育成と運営のための資金確保である。居住支援の拠点づくりだけでなく運営をおこなう民間支援団体を支援する仕組みづくりが喫緊の課題である。

表1 シェルターの機能

時期	役割
1 入所	緊急対応：必要に応じた速やかな入所
2 入所中	状況に応じた、適切な衣食住の提供 入所前の危機から生じる心身のダメージへのケア 避難したことによる環境変化に起因する生活への支援 生活再建に向けての制度利用などへの支援
3 退所時	退所時の環境変化に応じた支援 住み続けるための支援

2. 情報提供及び普及

① 情報提供及び普及内容

- (1) チラシ作成・配布
- (2) インスタなどのSNSに掲載
- (3) 女性相談所等関係機関に情報提供
- (4) 報告書作成・関係機関に配布



② 事業効果

- (1) 居場所や食材配布については、広報は紙媒体に加え、インスタなどのSNSにより、口コミによる利用者が増加している。
- (2) シェルターについては、DVからの保護の必要性から場所が特定されないようにする配慮が必要なため、広報が難しい。



3. 総括

- ・ **施設名称の変更**：みんなの居場所「うめちゃんち」と「CAPPOハウス」に名称変更
- ・ **設備改修**：想定外の費用が発生した。階段が急なので高齢者の利用は難しい。
利用者意見：1階と2階で機能が分かれ、2方向からの動線があってよかった。
- ・ **広報**：居場所・フードパントリー事業は、チラシ作成+SNS+口づて。
- ・ **協力関係**：CAPおかやまと同様の活動をしている複数団体との協力関係が強まった。
CAPおかやまと地元スーパーとのフードパントリーの食材提供協力関係を構築。
- ・ **プロジェクトの評価・将来性**
 - (1) 空き家の早期活用のための成年後見人及び家庭裁判所へのアプローチ事例
成年後見人にとって、居住用不動産処分許可申請が面倒であるが、居住支援法人がコーディネートする活用事例を増やしていくことが重要である。
 - (2) 居住支援法人と母子支援団体との協働事例
空き家活用においては、コーディネート役と活用役が必須である。居住支援法人は、コーディネート役となりうるが、必ずしも直接に支援活動を行っているとは限らない。そこで、今回のような協働を推進することが空き家活用にとっても、居住支援活動においても重要である。
 - (3) 補助金を活用した空き家活用のコーディネート事例
コーディネートは居住支援法人として取り組むべきであり、将来性がある活動である。判明した課題を次の案件に活かすことが重要である。